

いのがあります。ただあの幼稚園殊にあの職員室にホーハクとして漲って居る、呑気性、茶目性、笑い性に至っては他に類を見ませんね。而して此のお茶の水幼稚園職員室たるや実に世界無比です。如何ですこの頃も此の大スピリットがホーハクとして漲って居ますかね。

大正十一年三月元氣よく外遊から歸られた。みだしなみのよい先生が二ヶ年間の外地生活で一きわみがきがかかってまぶしい様にスマートな容姿になられた。

外観だけでなく毎日の保育にいろいろ新しいこころみで満ち満ちた幼稚園であった。やがてその結晶が幼稚園真諦となつて誕生したのである。

故倉橋先生を

お偲びして

大瀧 晴

私が、初めて倉橋先生の御弟子として先生の御指導をいた

だくようになったのは、大正四年のことでもございました。私は大正二年三月東京女高師文科を卒業して同校附属幼稚園に奉職したのでしたが、倉橋先生は、それから二年後に、当時主事であられた安井哲子先生が、東京女子大学の創設と共に学長として就任されましたので、その後任として、附属幼稚園の主事になられたのでございました。当時、先生は、二十七、八才、本当にお若く潑刺としていつもにこにこして元氣にあふれていらっしやいました。先生は、当時、外国で御勉強なさつて幼児教育に関する新しい学説を携えてお帰りになつたばかりで、先生の御講義、御指導は幼児教育にたゞさわるものの憧憬の的でございました。先生の心理学者としての鋭い御眼識は、実に恐ろしい程私共の心の中を見抜いて細かく分析し解剖してえぐるようなメスを入れて、容赦なく批判御指導下さいました。併しその御指導が実に明瞭で、わかり易く、ユーモアに富み、快く笑いながら心深く刻みつけるといふ先生独特のものでした。これは先生の御指導を受けられた全国幾万の倉橋先生崇敬者の等しく御同感下さることと信じます。

先生の自由主義の幼児教育は、当時の古い形式的な幼稚園しか知らない私共には何も彼も驚異であり、そして即時に実現の希望をそそることはかりでした。しかも女高師附属幼稚園は全国にさきがけて先生の学説を実現しなければならぬ立

場にありましたので、お若い主事さんを中心に若い私共保母は、日々希望にみちて企画をすすめ、先生の御説を片はしから実行にうつさせていただきました。

今まで、だんごを作り、象を作り、猿を作り、只、それだけとして終って居た粘土細工を、今度は動物園を作ることを目的として子供はそれぞれ希望に燃えて一生懸命に作って、動物園を開き、見物ごっこをしたり、国技館の春場所、夏場所ともなれば、遊戯室に四本柱をしつらって相撲をとらせて見たり、今では何でもない事でも、当時としては、本当に新しいシステムとして、日々参観に見える全国の保母さん方をアツと言わせて鼓舞したものでした。私はその後、女子学習院に転任して昭和五年まで同校教授として勤務することとなり、学習院では、小学校、中学、高等学校と順々に各期に亘り経験をふませていただき、女高師文科を卒業した者としては、珍らしい、ありがたい歩み方をさせていただきましたが之も偏に倉橋先生の御指導の賜物で、私の一生を通じての教育観は実に倉橋先生の御指導によって打ち立てていただいたもので、如何なる場合もこの教育観の上になつて、処理してゆけばよいということを体験させていただきました。先生の教育学説は実に高迈なもので、戦争の前後を問わず時代の推移にかかわらず永久不変のものであるということを感じてただただ感謝と感激あるばかりでございます。倉橋先生は私

共家族全部にとつての恩師でいらっしやいます。私の主人も教育家でしたが、先生を敬慕申上げること私に劣らず、機会ある毎に先生の御指導を仰ぎ、特に茨城県の高等女学校長をしている時は、度々先生を招聘して御講演をお願いしました。長女も女高師文科在学時代に御指導をいただき、二女、三女は、保育実習科に入学して御手厚い御指導をいただきました。特に二女朋子ともこは卒業と同時に学校の推薦で、恐れ多くも、当時御幼少の皇太子殿下の側近奉仕の榮譽を担わせていただきましたが、その拝命より御勤めの五ヶ年間で、どの位先生御夫妻に御厚情蒙りましたか、又御心配をおかけ申上げましたか、何と御礼を申上げてよいか分らぬ程でございます。はじめ東宮御所に御奉仕の命をいただいた時、私は何も分らぬ若い娘が御所に上つて失礼な事があつては大変だと心配のあまり、当時女高師の作法の担当して居た岡初野氏が私の親友でしたのを幸いに私は倉橋先生に「先生、家の娘は特別幼稚でほんやり者ですから、御所に上る前に、暫く岡先生からお作法でも教えていただいたら如何なものでしょうか」と御相談申上げた所、先生は形を改めて「とんでもないことですよ。礼儀作法の立派な娘さんなら華族さまから、いくらでも探せるけれど、行届かなくても純真なありのままがいいと思つて推薦したのですよ。馬鹿な所をお目にかけるのですよ。お遊びのお相手の時も只お側で丁寧におじぎばか

りしているのでは駄目で例えば、雪が降り積ったら、宮様の事を放つて外に飛び出して自分達が面白くて夢中になって雪合戦を楽しむのが本当の忠義（その時代の言葉）なのですよ」と私の心得違いをいまして下さいました。このお言葉の中にこそ先生の御理想がうかがわれるとしみじみ悟らせていただきました。当時から長い間先生は、宮中に伺候して皇后陛下に心理学の御講議を申し上げられたとも承つて居りますが何れの点から考えましても感慨無量の思いが致します。

先生の思い出は書いても書いてもつきません。地方に出ましてからは先生が御講演にお出で下さることをどんなにお待ち申上げましたか、又ラジオの放送をどんなに嬉しく承った事か、又毎月の「幼児の教育」の先生のお言葉をどんなになつかしく読ませていただきました事か、あゝ、しかし、今はもうそれも叶いません。私共はただただ先生の御指導を一生の柱として、生のある限り及ばず乍ら、世の為人の為に、又幼児教育に微力を捧げさせていただきます、先生の御高恩の万分の一にお報いさせていただきますと誓うものでございませす。

× × × × ×

人間倉橋惣三先生

大塚 喜一

日本の保育界の恩師倉橋惣三先生が、フレール先生の誕生日に、久遠の故郷への道筋を遺して還られた。その翌日、四月二十二日の朝六時過、ラジオが先生の御急逝を告げた時僕は前学年の収穫の成果を謄写原紙一枚に刷ったものを用いてその日の第一、二時限の教育哲学の講義（保育二年生選択科目）の幕開けをしようと構えていた際であった。

終始一貫して幼児の純情に引きつけられ、そこから新に出直して保育者自身とその子とが一体一如となる、そのように純一になり切った極致が、方法や手段の入るすき間のない保育の真諦であり、人間を再創造する樂園である。将来保母たるべく志を立てて勉学して居る若い女性達から入学当初に提出させた立志の動機を記したものに、倉橋先生がこのよ